

動物のいる風景

どうぶつ基金理事長
佐上 邦久さん ⑥

今春、以前から訪れたかったトルコに行きました。ちなみに、どうぶつ基金理事長としての出張や出張、地方講演などの旅費はすべて個人負担です。給料も一切もらっていません。税金を使って視察旅行に行く政府とは違いますので念のため。

前置きはさておき、「トルコ」としてトルコと混同されたがもしれません。実は、世界一の動物愛護先進国として有名な国です。どうして自分の目でそれを確かめたかったのです。

“先進国”トルコで見た楽園

本日にトルコは野良の猫や犬にとって楽園でした。まちを歩く公園や高級ホテル、マンションの前などに自治体や個人ボランティアが設置した野良猫・犬用の立派な家があります。掃除や餌やりはボランティアが担い、餌が自治体から無料で配られます。体重40kgを超えるような大型犬が歩道や店の前でお昼寝、高級レストランの屋外のテーブルにも、猫が来て分け前をねがいます。だれも嫌な



写真左はトルコの野良犬。街中でゆっくりくつろいでいる。写真右はトルコの野良猫。自治体から立派な「家」が提供されている（どちらもどうぶつ基金提供）



さがみ・くにひさ 1960年生まれ。公益財団法人どうぶつ基金理事長。著書（共著）に『小さな命を私は救いたい』（どうぶつ出版、猫の手帖編鳥編）など。兵庫県在住。

顔をせず、ステーキを分けてあげます。耳にはどちらか不妊手術済みの目印が、大なるタテ、猫ならV字形のカット（くくく）という具合です。トルコでは、自治体予算の1%を動物愛護、主に野良犬や野良猫の世話に使ったことが法律で決まっています。その予算で不妊手術やワクチン接種、ノミ対策などをします。また各自治体が動物専用の救急車を数台持っていて、けがや病気の野良犬・猫をはじめ、カモメや鳥などの野生生物を見つけた市民が電話でするとすぐに野良専用の病院に運びます。

1%といえは熊本県予算なら約91億円、熊本市なら38億円が、猫や犬、野生生物のために使われるわけです。トルコでは2021年に動物愛護法が改正され「動物の権利法」に変わりました。これは生き物をもの扱いするのではなく、生る主体としての権利を認めており、とても先進的で、すてきな法律です。

大都市イスタンブールには約100万匹の野良犬、野良猫が暮らしています。行政による不妊手術がある半數程度しか終わっておらず、出産に追い付かない状態ですが、国全体が一丸となって頑張っています。

「佐上さん様終わります。」

1%といえは熊本県予算なら約91億円、熊本市なら38億円が、猫や犬、野生生物のために使われるわけです。トルコでは2021年に動物愛護法が改正され「動物の権利法」に変わりました。これは生き物をもの扱いするのではなく、生る主体としての権利を認めており、とても先進的で、すてきな法律です。

大都市イスタンブールには約100万匹の野良犬、野良猫が暮らしています。行政による不妊手術がある半數程度しか終わっておらず、出産に追い付かない状態ですが、国全体が一丸となって頑張っています。